

平成 29 年度「特別支援教育に関する実践研究事業（次期学習指導要領に向けた実践研究）」
成果報告書

受託団体名	鳥取県
-------	-----

I 概要

1 モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
鳥取県	公	聴覚障がい	鳥取県立鳥取聾学校（とっとりけんりつとっとりろうがっこう）
鳥取県	公	聴覚障がい	鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校（とっとりけんりつとっとりろうがっこうひまわりぶんこう）

2 研究課題

多様化する幼児児童生徒の教育的ニーズに応えるために、実態把握をもとにした指導の工夫改善により、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。

3 研究の概要

（1）個々の実態の多面的な整理と分析

個々の実態を多面的に整理・分析するための視点や方法を検討し、学習上又は生活上の困難の背景にある要因や関連性等について分析する。学校独自のシートや自立活動の流れ図等を活用し、個々の実態の全体像を一元的に捉えながら、重点的な指導目標を導く。

（2）自立活動や教科等を横断的に関連させた指導の工夫

実態把握をもとに重点的な指導目標や効果的な指導方法・指導体制等を検討し、自立活動や教科等の中で横断的に関連させて取り組み、妥当性を検証しながら工夫改善していく。

（3）習得した知識及び技能が生きて働く授業の工夫

習得した知識及び技能が生きて働く学習活動が適切に設定されているか、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて課題解決する学習活動となっているかといった視点で意見交換し授業研究と授業改善に取り組む。幼児児童生徒が習得した知識及び技能を生かして思考・判断・表現したり、新たな気づきや疑問を見出したりしているかを丁寧に分析することで、基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況や資質・能力の向上を評価する。

4 研究の成果

(1) 個々の実態の多面的な整理と分析

聞こえや言葉等に関する検査や各種テストの結果、強み・できること等の情報を実態把握のためのシートに整理することで、学習上又は生活上の困難さにどのような背景があるか、困難さの改善のためには自立活動や各教科等においてどのような指導が必要かについて、チームで検討し、個々の実態に応じた指導につなげることができた。

(2) 自立活動や教科等を横断的に関連させた指導の工夫

実態把握に基づき、ケース検討会や授業研究会等で、指導内容と学習課題・指導場面の設定、指導方法や支援方法を検討・見直しながら、自立活動や各教科の中で関連させて指導に取り組んだ。めざす子どもの姿が明確になり、子どもたちが活動に見通しを持って取り組もうとする姿が育ってきた。

鳥取聾学校本校においては自立活動の個別の指導計画の修正、ひまわり分校においては自立活動の流れ図の作成を行い、指導場面を具体的に示すようにした。

(3) 習得した知識及び技能が生きて働く授業の工夫

所属する教員が年間1回以上授業研究会を実施する1人1研究授業や各学部の授業研究会をとおし、個々の実態に応じた指導や支援の工夫について協議し授業改善につなげることで、幼児児童生徒が学習で身につけた言葉や考え方を他の場面で使おうとする姿へとつながった。

5 課題と今後の方策

(1) 個々の実態の多面的な整理と分析

○鳥取聾学校

- ・各学部や小グループでの研究協議（実態把握、それに基づいた指導・支援、RPDCAサイクルでの検証）の流れを次年度に引き継ぐ。

○鳥取聾学校ひまわり分校

- ・全学部で冰山モデルシートによる実態把握を行い、学習上・生活上の困難さとその背景を探り、見えている姿だけでなく、行動の理由や発達など様々な視点から子どもを理解する。

(2) 自立活動や教科等を横断的に関連させた指導の工夫

○鳥取聾学校

- ・修正した自立活動の個別の指導計画について、次年度は活用と実践を積み上げ、各教科等との関連について検証する。

○鳥取聾学校ひまわり分校

- ・自立活動の流れ図に他教科と関連させた指導場面の枠を設け、関連性を図った授業づくりを行う。また、全職員で幼児児童生徒を理解し教育実践するために、かかわり方や授業の留意点をまとめた「ひまわりスタンダード」を活用する。

(3) 習得した知識及び技能が生きて働く授業の工夫

○鳥取聾学校・鳥取聾学校ひまわり分校

- ・授業改善の視点の明確化、指導案様式の改訂、理解や思考を促す手話による指導力について授業をとおして取り組む。また幼児児童生徒の変容や授業の改善につなげる評価の在り方も検討する。

※鳥取県においては、法令及び条例・医学用語・固有の名称等の表記を除き、障害を「障がい」と表記